公益財団法人愛知教育文化振興会

教育と文化

No.141
令和8年7月

岩津城址

Contents

P2 「はじめに子どもありき」の理念を未来へ
【巻頭言】 紙とデジタルをつなぐ 教育の全方位戦略
愛知教育文化振興会理事長 山本武志

P4 岩津松平氏進出600年を機に名君・名刹・史跡を紹介
【三河の文化を訪ねて】
歴史と未来をつなぐ力 岩津中(岡崎)

P6 三河小中学校長会･三河教育研究会･愛知教育文化振興会の連携
【特集】 三燦(さんさん)会の紹介

P8 子どもにも大人にも伝えたい「生き方」を提言
【教育随想】 尽生(じんせい)と志事(しごと)
株式会社ティア代表取締役社長 冨安徳久

P9 地域を愛し、地域に愛されて育つ子どもたち【単元構想表につながるQRコード付】
【教室の窓辺】 地域の温かさの中で 小坂井東小(豊川)

P10 3年間の研究成果を紹介【論文全体が読めるQRコード付】
【令和7年度最優秀論文】 自ら追究し続ける子の育成
三谷東小(蒲郡)

P12 授業の中で文振の刊行物を効果的に活用した事例
【刊行物の活用紹介】 「社会の友」と教科書の双方向的な活用方法 南陽中・前 高師小(豊橋)

P13 令和8年度学校教育ボランティア助成グループ一覧

P14 令和8年度研究発表校一覧

P16 文振だより

巻頭言

紙とデジタルをつなぐ教育の全方位戦略

―「はじめに子どもありき」の理念を未来へ ―

公益財団法人愛知教育文化振興会　理事長　山本　武志

このたび、加藤嘉一理事長の後任として、公益財団法人愛知教育文化振興会の理事長に就任しました。昭和32年に設立された本法人は、三河の子どもたちの学びを支えるため、安価で質の高い刊行物を刊行し続けています。戦後の教育復興期から、三河教育の先人たちは、「はじめに子どもありき」の理念のもと、目の前の子どもの成長を願い、ガリ版・鉄筆、ＯＨＰシートなど、時代ごとの道具を用いながら、個々の教師の創意と工夫によって教材や評価資料を生み出してきました。その営みは、「子どものために」という熱い志を受け継ぎながら、三河教師の知恵と経験を結集した、組織的で機能的な教材作成へと発展してきたところです。子どもにとって分かりやすい教材とは何か、教師が授業で使いやすい評価資料とは何か、を問い続けてこられた歩みの重さに、新理事長として身の引き締まる思いがいたします。

ＩＣＴの時代だから注目したい「紙媒体」の力

一人一台端末が整備され、デジタル教材やＡＩを活用した学習支援が日常のものとなりつつあります。ＩＣＴには、児童・生徒一人一人の学習状況を即時に把握できること、必要な情報に素早くアクセスできること、離れた相手とも考えを共有できることなど、大きな可能性があります。学校教育がこの力を生かしていくことは、もはや当然の時代です。だからといって「ＩＣＴか、紙か」という二者択一で教育を考えてよいわけではありません。紙の教材は、子どもたちが鉛筆を持ち、自分の考えを線や言葉で書き込み、何度も見直しながら理解を深める営みを生みだします。プリントの手触りや香り、テストの余白に残されたメモ、消しゴムで直した跡、教師が赤で添えた一言には、子どもの思考の過程が表れています。そこには、画面上の正誤判定だけでは捉えきれない、学びの息づかいがあるのです。

教育の『全方位戦略』という考え方

現在の自動車業界には、電気・水素・ハイブリッドと複数の技術を並立させる「全方位戦略」という考え方があります。教育においても多様な方法を組み合わせる姿勢が大切であると考えています。新しい技術を取り入れることと、これまで大切にしてきた方法を守り磨くことは、決して矛盾するものではありません。子どもの実態、授業のねらい、学習内容に応じて、ＩＣＴ、紙媒体、対話、体験、地域の人とのかかわりを最適に組み合わせることこそ、これからの教師に求められる専門性ではないでしょうか。

「英語で学ぶ」先進的な教育活動

私が勤務する豊橋市立八町小学校では、特色ある教育活動の一つとして公立小学校で全国初となるイマージョン教育コースを設置し、7年目を迎えました。日本人教員とネイティブな英語を話す外国人教員が協力し、「英語を学ぶ」のではなく「英語で学ぶ」授業を創り上げています。道徳と国語科以外の教科等で、英語を「使う言葉」として位置付け、子どもたちは英語で問い、友達と相談し、実験や制作を通して考えを深めています。そこで育っているのは、単に英語が話せる力だけではありません。異なる文化や考え方を尊重し、自分の思いを伝えようとする態度、世界とつながろうとする意欲、多様性を理解する力です。これらは、これからの時代を生きる「地球市民」としての基礎であると感じています。

地域を愛する心を育む教育活動

一方で、八町小学校が大切にしているのは、イマージョン教育のような先進的な教育だけではありません。地域の伝統文化を学び、地域の方々とかかわりながら、ふるさとを愛する心を育てることも、本校の教育の大きな柱です。地元で４００年の歴史を誇る人形浄瑠璃に親しむ学習、豊橋の奇祭「鬼祭り」の文化を学ぶ鬼の面づくり、平和について考える学習、コミュニティ・スクールとしての地域と共にある学校づくりなど、子どもたちは多様な人々とのかかわりや体験を通して、学校だけでは得られない学びを積み重ねています。

世界へ視野を広げることと、地域に根を張ること。この二つを調和させながら同時に展開することが、本校における教育の「全方位戦略」だと捉えています。

教師を支える進化型の教材として

こうした実践を通して改めて感じるのは、教育において大切なのは、方法そのものではなく、目の前の子どもにとって何が最適な学びとなるかを問い続ける姿勢であるということです。

教材は、子どものためにあると同時に、授業をつくる教師を支えるものでもあります。多忙な学校現場において、基礎・基本を的確に確認できる教材、単元のねらいに沿った活用しやすい教材、採点や見取りを次の指導に生かせる教材は、先生方の授業改善を支える大切な土台となります。本法人の教材が長く学校で用いられてきたのは、現場の先生方の実感に基づき、子どもがつまずきやすいところをふまえて、定着させたい力、評価で見取りたい観点を大切にしてきたからだと考えます。

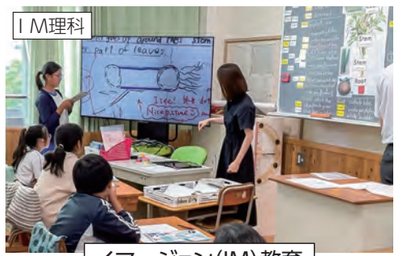
もちろん、紙媒体の教材だけに閉じていてよいということではありません。本法人の教材は、紙媒体を中心にしながら、必要に応じてＱＲコードを通してデジタル資料や補充問題、解説動画にアクセスできます。また、実際に利用している子どもや教師の意見を随時吸い上げるシステム「モニターＢＯＸ」も展開しています。子どもや現場の先生方の声を生かし、改善可能なものは速やかに反映していく「進化型の教材」であることは、大きな強みです。紙で考え、ＩＣＴで広げ、対話で深め、体験で確かめる。その循環を生み出す教材づくりに、本法人ならではの可能性があると考えています。

三河教育を未来へつなぐ役割

本法人がこれまで刊行してきた教材は、三河教師の授業づくりへの願い、子どもの成長を支えたいという思い、そして学校現場に寄り添う公益財団法人としての使命が込められた教育文化そのものです。だからこそ、私たちは時代の変化に背を向けるのではなく、ＩＣＴのよさを積極的に認めながら、紙媒体の教材が果たしてきた価値を改めて発信していきたいと思います。

デジタルの即時性と、紙の確かさ。世界へ開く学びと、地域に根ざす学び。その両方を大切にする全方位の教育を、三河の子どもたちのために支えていくことが、本法人のこれからの役割であると考えています。微力ではありますが、これまで支えてくださった先生方、関係機関の皆様、そして学校現場で日々子どもたちと向き合っておられる先生方のお力をいただきながら、公益財団法人愛知教育文化振興会の歩みを「未来へ」つないでまいります。子どもたちの学びのために、伝統を受け継ぎ、時代の要請に応え、よりよい教材と教育文化の創造に努めてまいります。どうぞよろしくお願い申しあげます。

人形浄瑠璃劇

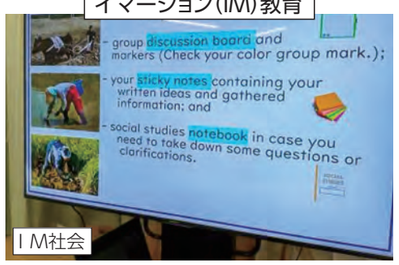


ＩＭ理科

地域の伝統文化

鬼の面づくり

イマージョン(IM)教育



ＩＭ社会

岩津松平氏進出600年
歴史と未来をつなぐ力

岡崎市立岩津中学校長　丹下　義輝

歴史的景観

岩津町は、愛知県岡崎市の北部、豊田市に近接する地域に位置しています。学業成就の神として親しまれる岩津天満宮をはじめ、名刹や古墳など数多くの史跡に恵まれた、歴史と文化が息づく町です。中でも、地域の象徴的存在として知られるのが、岩津城址です。

岩津城

岩津城は、岡崎市岩津町字東山に所在した中世の山城です。城域は東西約150メートル、南北約200メートルに及び、主郭と南郭、それらを結ぶ土橋、主郭を巡る空堀など、良好な遺構が現在も残されています。この城は松平氏によって築かれ、徳川家康公の祖先である岩津松平家の拠点として機能しました。家康公の祖父にあたる安祥松平家七代当主・松平清康が岡崎城へ拠点を移した後も、岩津城は岡崎城の北の守りとして重要な役割を担い、家康公の手によって改修・強化が施されました。貴重な山城遺構として、松平氏の岩津進出から600年を経た現在も、その往時の姿をしのぶことができます。

往年の姿が息づく
岩津城址

岩津城址と学校とのかかわり

岩津城址と岩津中学校とのかかわりは、今から11年前にさかのぼります。きっかけは、岩津城址の清掃活動でした。当時の岩津学区総代であった時々輪忠正さんから、岩津中学校に協力の依頼が寄せられました。生徒たちは城址に生い茂った竹の伐採や運搬を手伝い、その様子は当時『中日新聞』にも取り上げられました。記事には、「小高い山の城跡に生えていた約百本の竹を切り、生徒たちが運搬を手伝った。」と記されています。

それ以来、参加する生徒は年度ごとに変わりながらも、毎年百名を超える生徒が、地域の方々とともに岩津城址の環境整備に取り組んでいます。昨年度の活動後には、生徒が「自分の地域に歴史に残るものがあるなんてすごい。楽しく活動できたので、またやりたい。」と語ってくれました。生徒たちの中に、地域の一員として郷土を大切に思う心が脈々とつながって、郷土愛が芽生えていることを強く感じました。

岩津中学校生徒による岩津城址の清掃活動

岩津城と松平信光

岩津城は、松平家二代・泰親、三代・信光の父子によって築城されました。中でも松平信光は、後の徳川家康公へと連なる松平家を飛躍的に発展させた人物として知られています。信光は西三河の約3分の1を支配下に置いたと伝えられ、室町幕府との関係を築きつつ、三河各地に散在していた松平一族を統率しました。85歳まで生き、48人の子をもうけたとも言われています。

1404（応永11）年に生まれた信光は、幼少期に父を失い、二代・泰親の養子として育てられました。足に障がいのあった兄が本家を継ぎ、次男であった信光は額田郡の岩津の地に移り、岩津松平家を興します。これが岩津城進出の起点となりました。

信光は63歳の時、牢人一揆を鎮圧する過程で松平一族を束ねることに成功し、三河国における勢力を急速に拡大していきました。六代・信忠の時代には、「十四松平」「十八松平」と称されるほど多くの庶家が派生し、松平一族は大きな繁栄を遂げます。信光は1488（長享2）年、岩津城にて85年の生涯を閉じ、岩津の妙心寺に葬られました。

信光の寺院建立

信光は寺院の建立にも力を注ぎ、36歳で滝村に萬松寺を、48歳で信光明寺を、58歳で妙心寺を建立しています。およそ10年ごとに寺院を建立できたことからも、当時の経済力と人脈の豊かさがうかがえます。信光明寺は、1451（宝徳3）年に祖父・親氏、父・泰親の菩提を弔うため創建されました。後に兵火で焼失しましたが、1478（文明10）年建立の観音堂は現在、国の重要文化財に指定されています。また、圓福寺総門前の参道脇に建つ真浄院は、信光の妻（一色氏の娘）の菩提寺であり、歴史的にも重要な場所です。

（上）信光明寺
（左）真浄院

若一神社創建600年

岩津学区にある若一神社は、松平泰親によって創建されたと伝えられる古社で、令和8年、創建600年を迎えました。一族の繁栄と所願成就を願い、熊野三山から神々を勧請したとされています。岩津松平氏進出600年は、若一神社創建年を根拠としていると伝えられています。

若一神社は1852（嘉永5）年に現在地に移り、1971（昭和46）年に本殿と拝殿を移築しました。

若一神社

岩津松平氏600年記念事業「信光フェスタ」

松平氏の岩津進出から600年の節目を迎え、記念事業として11月3日に「信光フェスタ」の開催が予定されています。この事業を推進する「岩津松平氏輝きの600年」推進懇話会は、人と人とのつながりを大切にすることを理念に、2019（令和元）年に発足しました。地元有志や歴史愛好家らが中心となり、城址の保存・整備のみならず、岩津の歴史的価値の発信に取り組んでいます。

代表の阿部太郎さんは、「岩津は、松平家が山間地から平野部へと進出する際の重要な拠点でした。この価値ある歴史資源を活かし、地域の誇りとなる町を目指したい。」と熱く語っています。

また、この事業には、岩津地区にある岩津小学校、岩津中学校、そして岩津高等学校がさまざまな形で参画する予定となっており、岩津中学校は『岩津の舞』を披露する予定です。

この岩津中学校に伝わる『岩津の舞』は、今年で18年目を迎えた本校の伝統的な創作演舞であり、3年生が体育大会に披露しています。この演舞の歌詞には岩津学区の名勝が折り込まれており、学校を愛する心意気が伝わってくるものになっています。

信光フェスタのキャラクター人形
（左）真浄院　（右）信光

これからの岩津地区

現在の岩津地区は、自動車関連産業をはじめとする製造業の集積地として発展を続けています。阿知和地区工業団地の整備と、阿知和スマートインターチェンジの開設により、地域経済のさらなる活性化が期待されています。工業団地造成は、令和9年3月末の完了を予定しています。

岩津は、600年の歴史を礎として、これからも未来へ向かって輝き続けることでしょう。

岩津の舞

特集 三燦（さんさん）会の取組

「自分たちの手で編集した質の良い学習資料を低廉な価格で供給し、学習効率を高めたい」

こうした強い思いを抱かれた三河の先生方の結束により、「冬休み日誌」「夏休み日誌」「ことばのきまり」などが誕生して70有余年が経ちます。刊行物の数は42品目にまで増えましたが、そこに込められた熱い思いは、今も変わっていません。

また、結束という部分では、三河小中学校長会、三河教育研究会、愛知教育文化振興会の三者連携が求められ、**「編集は三河教育研究会」「刊行は愛知教育文化振興会」「事業推進は三河小中学校長会」**というそれぞれの役割を一層定着させることが重要となっていました。

そうした中、平成30年10月に三者の代表が顔を合わせ、編集・刊行・事業推進の在り方や連携体制について話し合う「三燦会」が正式にスタートしました。「三燦会」の名称には、三者がそれぞれの役割を果たし、その連携によって三河教育に燦々と光を注ぐことができるようにとの願いが込められています。

ここでは、これまでの取組の紹介と、去る５月25日㈪に開催された令和８年度第１回三燦会の様子をお知らせします。

「ことばのきまり」と「夏休み日誌」
（ともに昭和26年度版）

「三燦会」での話し合いから生まれた五つの取組例

❶ 令和２年度からの小学校英語導入に向けた取組

新たな学習教材を作る必要性が提起され、「英語の学習」の編集を三河教育研究会、刊行を愛知教育文化振興会、各小学校への周知と採用の依頼を三河小中学校長会が担いました。

❷ ホームページの相互リンク

情報提供の広がりを求めて、三河小中学校長会と三河教育研究会のホームページに、他二者のホームページへのリンクボタンを設置したことで、持続的な情報共有が図られるようになりました。

❸ 刊行物見本の回覧

先生方に実際に刊行物を手に取っていただけるよう、愛知教育文化振興会が見本を提供し、三河小中学校長会が回覧と意見の集約を担い、三河教育研究会から各編集委員会にそれらの意見を還元しました。

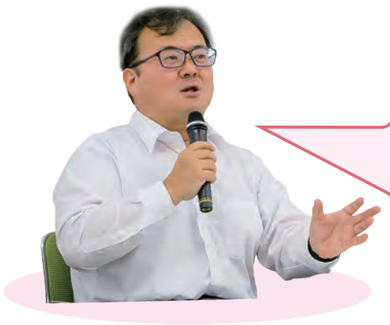
❹ 編集委員長による刊行物の魅力発信

刊行物編集委員長が、三河小中学校長会や三河教育研究会の諸会議に参加をし、当該刊行物の魅力や必要性について発信する場を設けるようにしました。この発信が諸会合を通じて、全郡市、全学校、すべての先生方により一層届くようになることを願っています。

❺ 愛知教育文化振興会に寄せられる意見の共有

毎年度、指定校から刊行物へのご意見・ご要望をお寄せいただく「学校モニター」、教科領域等指導員からご意見・ご要望をお寄せいただく「郡市等モニター」、どなたでも自由にご意見・ご要望をお寄せいただける「モニターBOX」と、本法人には様々な意見集約ツールがあります。貴重なご意見は、適宜、各編集委員会に提供し、三河全域に広めたいものは、三者で共有するようにしています。

本年度の第1回「三燦会」の様子



【三河小中学校長会】

○文振ホームページにある「モニターBOX」は、刊行物への意見や要望をだれでも投稿できる良い取組です。どんなものが寄せられたかを広く知らせることができるといいですね。

○刊行物を使った実践例や使った感想などを、三河中の先生方に広く伝えていくようなことができないでしょうか。

【愛知教育文化振興会】

○「モニターBOX」に寄せられた意見を、「教育と文化」や「教育みかわ」などの紙面で紹介したり、それぞれのホームページに掲載したりするなど、方策は多々ありそうです。ぜひやっていきましょう。

○先生方が、自身の刊行物活用事例を紹介し合うという取組は魅力的ですね。紙面での紹介だけでなく、互いの事例について語り合う座談会的な場もあるといいですね。

【三河教育研究会】

○「モニターBOX」の意見は、三河教育研究会の役員会や諸会議にとどまらず、各研修会等で広く流せますので、情報を提供していただければと思います。

○刊行物の活用事例や、刊行物に対する意見や感想を寄せていただく形であれば、論文よりも気軽に取り組め、多くの先生方に参加していただけると思います。本年度1年かけて、三河教育研究会で骨格作りを進めたいと考えます。周知などの面で三者の連携もできそうですね。

本誌16ページで「モニターBOX」に寄せられたご意見・ご感想を紹介しています。今後も、「三燦会」の名に込められた思いを大切に、三者の連携強化と、速やかな取組の実施を進めていきます。

教育随想

『尽生（じんせい）と志事（しごと）』

～感謝に勝る能力はない～

株式会社ティア代表取締役社長　冨安　徳久

18歳で葬儀ビジネスと出合い、47年が経ちました。葬祭プランナーとして働いたサラリーマン時代の18年間だけでも、両手両足の指の数では足りないくらい、自殺した子どもの葬儀、そのご両親と真正面から向き合って来ました。

現在の日本は、10代の自殺者が世界の中で突出して多い国です。戦後80年以上の平和が続く国なのに、激しい内乱もなく、物質的に豊かであると言われる国なのに。なぜ10代で自死を選ぶのか。本当に憂いています。

その原因の一つに、大人たちが楽しそうに生きていない、働いていない、不平不満や誹謗中傷ばかり口にしていることがあるのではないでしょうか。若者は、そんな大人の世界に落胆し、大人になる未来に希望をもてなくなる、いわゆる『ピーターパン症候群（大人になんかなりたくないという意識）』に陥っているのではないかと思います。

そのような問題を解決する一助となるため、私は理念と愛のある会社の設立をめざしました。

どんな会社にも意義と意味と役割があり、何の為に、誰の為にという経営理念があるはずです。経営理念のない会社で働くのは、給料によって会社に支配されているのと同様です。

愛とは支配しないことです。愛のある会社には、何の為にこの会社はあるのか、誰の為にこの会社はあるのかという思いが経営理念として存在します。そして、愛のある会社は、理念教育を納得できるまで行います。それを怠れば、ただの『仕事（仕える事）』になり、思いのない作業になってしまいます。やはり、仕事は『志事（志・使命感をもってあたる事）』に昇華させるべきです。ただの作業では、ありがとうという感謝の言葉の報酬、やり甲斐、生き甲斐、働き甲斐というお金以外の報酬を受け取ることはできないと思います。

そして、ビジネス以前に各々の人生があります。人生そのものを定義すれば、『人生とは、人の役に立つこと』。つまりは誰かの為に、何かの為に尽くして生きる『尽生』を生きなければ、お金だけが報酬という辛くしんどい働き方になってしまいます。『尽生と志事』＝『尽くす為に生き、志・使命感をもって働く』これが人として生きる道だと思います。

『仕事』はやらされ感で働く仕方なくやる作業であり、『志事』はその事を自らの使命と捉えて、より多くの人を喜ばせる為に動くことです。人生を『尽生』にして、仕事を『志事』にして、働くことの面白さを知る。その『志事』を理解し成長していく自分を感じられることが『志事』の面白さだと知ってください。

人は明確な理由なくして、本気で取り組むことはできません。だからこそ企業は理念経営で、自らの事（自分事）として働けるように物事の考え方、本質の捉え方を教えます。働くことが与えることだと理解できた時、自らのレゾンデートル（存在理由）を確かなものにできるのではないでしょうか。さらに言えば『感謝』無くして『志事』も『尽生』も絶対に上手くはいかないのです。

『感謝は実力を倍加する、打ち出の小槌なり』という言葉がありますが、感謝に勝る能力はありません。命の最期と向き合う企業だからこそ、家庭教育、学校教育でも学べない感謝教育・感謝経営を企業の教育理念として、これからも伝え続けていきたいと思います。

感謝なき道、人生（ひと）の道にあらず

Profile　とみやす のりひさ

1960年、愛知県宝飯郡一宮町（現:豊川市）生まれ。大学入学を辞退し、18歳で葬儀社に就職する。

その後、葬儀ビジネスの社会性を高めるため、1997年に株式会社ティアを設立。2006年、葬儀社として中部圏初の上場を果たす。

現在、グループの会館数は、224店となる（2026年4月）。また、グループの葬儀請負件数は、年間26,470件に及ぶ（2025年9月期）。

会社経営の傍ら、学校に赴いて命の尊さや感謝の大切さを伝える「命の授業」と題した講演を行うなど、社内外で年間200本を超える講演（セミナー）活動を積極的に行っている。

教室の窓辺

地域の温かさの中で

豊川市立小坂井東小学校　教諭　岩下　雄哉

豊川市立小坂井東小学校は、旧東海道沿いに位置する小坂井町にあります。校区には、長く地域を支えてきた個人商店や施設が点在し、人々の思いが受け継がれて形づくられた町です。

本校では、『主体的に学び、自分の思いを表現できる小東っ子の育成』を研究主題とし、自ら課題を見つけ、解決に向けた活動を通して、情報活用能力と言語能力の育成に取り組んでいます。

2年生では、地域を学びの場とした生活科の単元『とび出せ！まちのたんけんたい』を春と秋の二度設定しました。長期間にわたる計画にもかかわらず、地域の商店や施設の方々は、訪問の依頼を快諾してくださいました。

春の探検では、商店や施設を訪れ、地域の方々の話を聞きます。校区全体を巡る中で、子どもたちは、自分たちの生活が多くの人々によって成り立っていることに気づくことができました。

秋の探検では、子どもたちの「もっと知りたい。」という思いを出発点に、訪問先を自分たちで選択し、グループを作ります。学習の見通しをもつ中で、「別の場所を選んだ2年生に伝えたい。」という子どもたちの思いをもとに、学年発表会を学習のゴールとし、各グループに分かれ、準備を進めることにしました。

訪問当日、クリーニング店の方は、「子どもたちにクリーニングの機械を触らせてあげたい。」と、大切にされてきた機械を子どもたちに操作させてくださいました。また、地域に古くからある神社を訪れた子どもたちは、総代を務める方に「なぜ小坂井に神社があるんですか。」と尋ねました。すると、「昔の人が小坂井をずっと守っていけるようにつくったんだよ。」と地域の先人たちの思いを教えてくださいました。

探検後は課題解決に向けて、探検を通して分かったことを「働く人」「施設」「お客さん」の三点に分けて整理し、いよいよ発表の準備です。本単元では、言葉で表現する力を育んできました。伝えたいことが聞き手に届くように意識して、原稿作りや発表練習をしてきた結果、「学校のみんなにも伝えたい。」という思いが子どもたちの中に生まれます。そして、学年での発表を経て、全校放送での発表にも挑戦しました。「緊張するけど、教えてもらったことを伝えたい。」と話す姿からは、地域の人々の思いを広げようとする温かい気持ちが感じられました。

地域に出会い、人々の思いにふれ、自分なりに考え、言葉にする。こうした学びの積み重ねを通して、子どもたちが自分の住む町に誇りをもち、町とのつながりの中で成長していくことを願っています。

今後も、地域とともに歩む学校であることの価値を胸に、私自身も子どもたちとともに学び続け、実践を重ねていきたいと考えています。

クリーニング店主の話を真剣に聞く子どもたち

『とび出せ！まちのたんけんたい』
単元構想表

この生活科の取組では、子どもたちが目を輝かせて主体的に活動する姿が見られました。かわいらしいお客さんの訪問は、今ではすっかり少なくなってしまった個人商店の方々に大変喜ばれます。

誕生日ケーキが自慢の洋菓子店では、おそらく味や食感、デコレーションの工夫が大切なのだろうと思っていたのですが、日々気をつけていることは、第一に衛生、第二に定量とのことでした。顔なじみの店主がそうした心構えで仕事をしていることを初めて知って、私も勉強になりました。

教職6年目を迎えた岩下教諭は、日頃、ICTの利活用を牽引するとともに、人と人との対話を大切にしています。昔ながらの温かさと令和のスマートさを併せもった先生だと感じています。こうした先生が、学校の伝統と新しい教育をどのように調和させていくのか、今後の活躍が楽しみです。

（前校長　中嶋　桂）

令和７年度
最優秀論文

自ら追究し続ける子の育成
―かかわり合いを大切にした授業づくり―

蒲郡市立三谷東小学校
教諭　小泉　辰十

論文本稿へ

1　はじめに

子どもたちは、魅力的な対象と出会ったとき、「もっと知りたい。」「やってみたい。」という思いをもつ。そして、思いをもった子どもたちは、課題を解決するために、自ら試行錯誤したり、「人・もの・こと」とかかわったりして、自分の見方・考え方を広げ、学びを深めていく。また、考えを伝え合い、すり合わせることで、新たな課題を見いだし、さらに学び続けようとする。こうした姿を求めて実践に取り組むことにした。

本研究では、このような子どもの姿を「自ら追究し続ける子」ととらえ、仲間とのかかわり合いを大切にしながら、自らの学習課題に向けて粘り強く追究する力を育てたいと考えた。そして、学びの流れを、

①思いをもち、自ら考える場
②ともに考え、深める場
③学びを生かし、つなげる場

と位置づけ、問題解決的な学習を進めていくことにした。

2　1年次の研究

大好きな三谷の町のために、自ら動き出す子の育成
―小学5年「おいでん三谷！～ぼくらの町、ステキ発見！～」の実践を通して―

思いをもち、自ら考える場

子どもたちには、三谷の町が好きという気持ちがあり、一人一人がお気に入りの場所をもっている。お気に入りの場所を紹介し合ったり、多くの人ににぎわっている昔の三谷の写真を見たりしたことで、子どもたちは、「今も素敵なのに、なぜ昔より人が少なくなったのかな。」という疑問をもった。そして、「もっと三谷のことを知りたい。」「三谷の素敵をいろいろな人に伝えたい。」という思いをもち、自らの課題解決に向けた活動に動き出した。また、パンフレット等で三谷のことを調べたり、実際に現地へ行ったりすることで、自分事として課題と向き合い、追究していった。

ともに考え、深める場

調べ学習や現地調査、地域の方へのインタビュー活動を通して、子どもたちは、三谷の町の魅力や課題について考えを深めていった。また、「調査報告会」を設定し、互いの調査内容や考えを交流することで、新たな視点や課題に気づき、「もっと調べたい。」「他の人の考えも知りたい。」という思いを高めた。さらに、地域の人の思いや願いにふれた子どもたちは、自分たちにできることはないかと考え始めた。

学びを生かし、つなげる場

子どもたちは、調べたり考えたりしたことをもとに、「自分たちにできること」を話し合った。そして、ポスターやリーフレットを使って三谷の魅力を発信しようと考え、「三谷おいでん大使」として活動した。自分たちの学びが地域の活性化につながったことで、子どもたちの思いは、「もっと三谷を盛り上げたい。」「これからも三谷のために活動したい。」という新たなものへと広がっていった。

3　2年次の研究

大好きな三谷の町のために、自ら追究し続ける子の育成
―小学6年「設立！おいでんカンパニー！～三谷の町活性化計画～」の実践を通して―

思いをもち、自ら考える場

子どもたちは、5年生で取り組んだ「おいでん三谷！」の活動をふり返る中で、「もっと三谷のために何かしたい。」という思いをもった。そこで、三谷水産高等学校の生徒が開発した商品や、三谷の町にある和菓子屋の新商品を提示した。このことにより、「自分たちも商品をつくってみたい。」「三谷のよさを生かしたものをつくりたい。」という思いをもち、自らの課題解決のために動き出した。また、どのようなアイデアを取り入れたら三谷の魅力を伝えることができるか、自分なりの考えをもって追究していった。

ともに考え、深める場

商品開発に向けて、子どもたちは資料を使った調べ学習や企画書づくりを進めた。また、互いのアイデアや困り感を交流するために「おいでん会議」を設定したことで、「もっとよい商品にしたい。」「実現するためにはどうしたらよいか。」と考えを深めていった。さらに、和菓子屋の店主や三谷水産高等学校の生徒との交流を通して、商品開発の難しさや工夫、地域への思いにふれ、自分たちの考えを見直したり、新たな視点を取り入れたりして学びを深めていった。

学びを生かし、つなげる場

子どもたちは、自分たちが考えた商品を形にするために、試作品づくりやプレゼンテーション制作に取り組んだ。そして、和菓子屋の店主へ直接提案する場を設定したことで、子どもたちの「思いを伝えたい。」という意欲が一層高まった。実際に子どもたちのアイデアの一部が商品化されたことで、大きな達成感を味わい、「これからも三谷のために活動したい。」「新しい場所でもがんばりたい。」という思いをもつことができた。

商品化された和菓子

4　3年次の研究

大好きな「南山（みなみやま）」のために、自ら動き出す子の育成
―小学6年「ぼくらの南山！～下級生のために、これからのために～」の実践を通して―

思いをもち、自ら考える場

本校には、いちょう並木や大王松、南山など、自然に親しむことのできる場所が多くある。特に南山と呼ばれる山は、子どもたちにとって身近で慣れ親しんだ場所であり、多くの子が「秘密基地遊びをした。」「たけのこを採った。」などの経験をもっていた。6年生になった子どもたちは、3年生との南山遊びを通して、「下級生にも南山のよさを伝えたい。」「安全に楽しく遊んでほしい。」という思いを高めた。

そこで、学級の子どもたちだけで南山探検を行い、自分が感じる「南山のとっておき」を考える場を設定した。子どもたちは、「景色がきれい。」「自然がいっぱいだ。」「楽しい遊びができる。」など、南山の魅力を語り合った。しかし、友だちとの交流を通して「6年生の楽しいと2年生の楽しいは違うかもしれない。」「本当に下級生が楽しめるかな。」と考える姿が見られた。さらに、2年生と実際に南山へ行って調査をしたことで、「けがをしない遊びも必要だ。」「2年生が安心して遊べることも大切だ。」と、新たな視点をもって南山を見つめ直した。こうして、南山という身近な教材と繰り返しかかわることで、子どもたちは自分事として課題を捉え、追究していった。

2年生と南山調査

ともに考え、深める場

子どもたちは、自分たちが見つけた「南山のとっておき」を共有するために、「南山会議」を行った。そこでは、「どんなことを2年生に伝えたいか。」「安全に遊ぶためにはどうしたらよいか。」などについて、互いの考えを交流した。「絶景を伝えたい。」「遊び方を教えたい。」「ルールも必要だ。」など、多様な意見が出される中で、子どもたちは友だちの考えを聞きながら、自分の考えに取り入れていった。

その後、「遊び」「自然」「ルール」のチームに分かれ、南山ガイドブックづくりを進めた。活動を進める中では、「2年生にも分かりやすい説明にしたい。」「危険な場所も知らせたい。」など、下級生の立場になって考える姿が見られた。また、学校の自然に詳しい教師や校長先生とかかわることで、自分たちの活動に自信をもち、「もっとよいものにしたい。」という思いを高めていった。

学びを生かし、つなげる場

完成した南山ガイドブックを活用して、子どもたちは2年生と再び南山へ向かった。自分たちが考えた遊びを紹介したり、安全に遊ぶためのルールを伝えたりする中で、「2年生が笑顔で遊んでくれてうれしい。」という達成感を味わう姿が見られた。また、2年生の反応を実際に見たことで、「もっと分かりやすく伝えたい。」「楽しめる遊びを考えたい。」と、新たな課題を見いだすことができた。その後の学級や全校に向けた南山の清掃活動や遊び活動では、友だちと協力しながら活動する姿が見られた。活動を通して、「自分たちが南山を守っていきたい。」「下級生にも南山を大切にしてほしい。」という思いを高め、南山への愛着や責任感をもつことができた。また、単元終了後にも、「また南山へ行きたい。」「これからも自分たちにできることを続けたい。」という声が聞かれ、学びを生活やこれからの学校生活へつなげようとする姿が見られた。

安全に整備された南山（実践前（左）と実践後（右））

5　おわりに

3年間の研究を通して、子どもたちは「もっと知りたい。」「もっと学びたい。」という思いをもち、自ら課題解決に向けて取り組む姿を見せた。また、友だちや地域の人とかかわり合いながら考えを深め、学ぶ喜びや達成感を味わうことができた。さらに、地域や学校のために自分たちができることを考え、実際に行動へとつなげていった。これは、子どもたちにとって身近で魅力的な「人・もの・こと」を教材化し、「思いをもち、自ら考える場」「ともに考え、深める場」「学びを生かし、つなげる場」を軸に単元を構想したことによる成果であると考える。

今後も、子どもの実態に寄り添いながら、「自ら追究し続ける子」を育てる実践を積み重ねていきたい。

刊行物の活用紹介

「社会の友」の活用法

「社会の友」と教科書の双方向的な活用方法

豊橋市立南陽中学校 教諭　澤田 基希
（前 豊橋市立高師小学校）

5・6年生の社会科学習は、主に地域の人・もの・ことを教材として学習する4年生と比べて、取り扱う社会的事象の対象が広く、深くなります。それに伴い、教科書で取り扱う学習内容も増えます。子どもたちの大切な学びをより充実させるために、本校では「社会の友」を活用しています。なぜなら、知識・技能の定着や思考力の育成を図ったり、学習の導入で問いを生み出したりするなど、「社会の友」と教科書とを関連付けた双方向的な活用方法を工夫できるからです。ここで本校の実践を紹介します。

知識・技能の定着と思考力の育成

【教科書↓「社会の友」】

「社会の友」では、重要な人物や社会的事象が精選されて取り上げられています。子どもが問いを考えていく過程で疑問や不明な点があれば、すぐに教科書で調べたり確認したりできます。もう一度教科書の本文を読んだり、資料を読み取ったりする活動を繰り返すことで、人物の業績や社会的事象の意味などを理解でき、知識の定着につながると考えています。

また、「社会の友」には、資料を読み取る問題が豊富にあります。地図やグラフから特色や変化などを考えさせたり、○×を考える問題では、例えば「なぜ×なのか」を説明する活動を設けたりすることで、思考・判断・表現の力が高まります。

高校入試（社会科）では、複数の資料を関連付けて考える問題が多く出題されています。このことからも「社会の友」を活用して、小学校の段階から知識・技能の定着と思考力の育成を図っていくことが大切だと思います。

導入の工夫と探究学習の充実

【「社会の友」↓教科書】

学習の導入で「社会の友」を活用することもできます。地図やグラフへの色塗りにより、視覚的にも特色や変化などが読み取りやすくなり、社会的事象に対する問いを生むことができます。例えば、5年「水産業のさかんな地域」では、水揚げ量を表す円に色を塗る活動（円の大きさが水揚げ量を表している）と、暖流と寒流を赤と青で塗り分ける活動を行いました。

この活動後、資料を見て気付いたことを出し合いました。子どもたちからは、「赤色の流れが太平洋側で、青色の流れが日本海側にある。」「銚子や焼津の円が大きい。」「暖流と寒流がぶつかっている宮城には石巻や気仙沼などの漁港がある。」などの気付きが生まれました。これらの気付きが「どうして銚子や焼津、釧路は水揚げ量が多いのだろう。」「暖流と寒流がぶつかっていることは、宮城県の水揚げ量と関係しているのかな。」という問いを生みました。教科書で学習を始める前に「社会の友」を活用したことで、子どもたちは問題意識を高め、探究学習を進めていくことができたのです。

【資料1】「社会の友 5年」P12

QRコードを活用した学習の充実

「社会の友」に掲載されているQRコード【資料1赤枠】を読み込むと、NHK for School の動画や官公庁のホームページなど、学習の参考になるサイトにつながります。これらを活用することで、学習内容の定着とともに視覚的なイメージを補完することができます。先述の5年生の例では、水産庁のホームページから日本の水産業についてより深く学ぶことができました。他の単元でも「社会の友」と教科書を双方向的に活用し、QRコードで動画や詳しい説明を視聴する場を設けることは、子どもの探究心を支え、子どもの主体的な調べ学習を促すことになります。このように「社会の友」は、本校の社会科学習において大切な教材になっています。

なぜ水揚げ量が多いのかな？

令和8年度学校教育ボランティア助成グループ一覧

―― 読書活動グループ助成対象団体 ――

〈地区〉	〈団体の名称〉	〈代表者〉	〈主な活動場所〉
附属	愛知教育大学附属岡崎小学校　読み語りクラブ	川本佐代子	愛知教育大学附属岡崎小学校
岡崎	常磐東小学校読み聞かせボランティア「お話図書館」	奥村佐枝子	常磐東小学校
岡崎	読み聞かせサークル　P・i・P・i	宮山　京子	大門小学校
岡崎	おはなしルンルン	南口　香苗	矢作南小学校
岡崎	きらきら	羽佐田静果	北野小学校
碧南	かざぐるま	鈴木　恵子	日進小学校
刈谷	富士松東小学校読み聞かせボランティア「B－ボ」	神谷　照子	富士松東小学校
刈谷	小垣江東小読み聞かせボランティア　おたまじゃくし	林　　礼子	小垣江東小学校
豊田	根川小　絵本読み聞かせグループ　ねぎぼうずの会	近藤久美子	根川小学校
豊田	よみきかせサークルわくわく	安藤　江里	青木小学校
豊田	四郷小学校　読み聞かせ会	根本　智美	四郷小学校
豊田	みかんの花の会	川瀬　　朋	衣丘小学校
豊田	小原中部小読み聞かせボランティア「ひよっこくらぶ」	安藤佳予子	小原中部小学校
豊田	冷田小読み聞かせボランティア「ウリボタル会」	黒柳　智江	冷田小学校
安城	桜井小学校　読み聞かせボランティア	杉浦　潔美	桜井小学校
安城	祥南小図書ボランティア	安田　亜美	祥南小学校
安城	明祥中学校読み聞かせボランティア	江藤めぐ美	明祥中学校
西尾	米津小学校図書館ボランティア	二村　美紀	米津小学校
西尾	中畑小図書ボランティア「ブックさん」	村田のぞみ	中畑小学校
西尾	平坂小図書ボランティア	池田　百恵	平坂小学校
知立	知立小学校図書室ボランティア	小嶋　久幸	知立小学校
高浜	読み聞かせぐるーぷ『スマイル』	古橋　知美	翼小学校
みよし	ほくぶっく	古河　初美	北部小学校
幸田	ダンボの会	渡邉　友美	深溝小学校
豊橋	おはなしカンガルーの会	青山衣里子	豊小学校
豊橋	花田小学校図書館ボランティア	鈴木　加奈	花田小学校
豊橋	高師小図書館ボランティア	村田真衣子	高師小学校
豊橋	図書ボランティア「ぽっぽの会」	林　　吉子	前芝小学校
豊川	花うさぎ	伊藤　真実	萩小学校
豊川	長沢小読み聞かせ隊	堀内　順子	長沢小学校

―― 読書活動以外のグループ助成対象団体 ――

〈地区〉	〈団体の名称〉	〈代表者〉	〈主な活動場所〉
附属	愛知教育大学　学生ボランティア　有志の会	成瀬　麻美	愛知教育大学附属特別支援学校
岡崎	福岡学区福寿会連合会	本間　　正	福岡小学校
岡崎	伝道師　ブドウおじさん	中根　伸宏	恵田小学校
碧南	新川中あいさつサポーターズ	小笠原有花	新川中学校
刈谷	かりがね小学校　おやじ倶楽部	荒木　敏明	かりがね小学校
豊田	水やりボランティア	高木　周子	浄水小学校
豊田	畑ボランティア	金本　正男	浄水北小学校
安城	安城北中学校図書ボランティア	青野　高子	安城北中学校
西尾	吉良茶華道連盟	二村　岐子	吉良中学校
知立	八ツ田小あんしんみまもり隊	谷口　　翔	八ツ田小学校
高浜	生活科応援団	中根　忠義	港小学校
みよし	夢みるきたよしおやじの会	金子　聖一	三好丘中学校
幸田	生花ボランティア	小野チエ子	幸田中学校
豊橋	老津小学校学習支援ボランティア「ふるさと　おいつ」	大坪真悠子	老津小学校
豊橋	豊橋市立南部中学校図書ボランティア	丸山　美香	南部中学校
豊川	桜木おやじの会	森谷　尚弘	桜木小学校
蒲郡	三谷を育む会	小田　勝一	三谷中学校
新城	学校環境整備ボランティア「ふぁんふぁんファーマーズ」	福本　克司	新城小学校
田原	シニアの会	椿　実治郎	衣笠小学校
北設楽	とよね和太鼓同好会	坂本　則子	豊根小学校
豊川	御津南部小学校読み聞かせボランティア	山崎実奈子	御津南部小学校
蒲郡	三谷小　図書ボランティア	川上　由佳	三谷小学校
蒲郡	竹島小学校読み聞かせの会	山口やす子	竹島小学校
新城	東郷西小学校　読み聞かせグループ「ぼちぼちいこか」	岡田　始甫	東郷西小学校
新城	読み聞かせボランティア「やまびこ」	石野　里美	黄柳川小学校
田原	田原東部小学校　読み聞かせボランティア	濱田麻利子	田原東部小学校
田原	おはなし手のひらの会	鈴木美代子	福江小学校
北設楽	田口読み聞かせの会	佐藤　康平	田口小学校

三河の教育研究

令和８年度　研究発表校一覧

令和８年５月現在

〈附属学校〉

発表年月日	研究領域	研究主題	研究期間	学校名
8.10. 6㈫	全教科	生活教育授業研究会 ※研究主題は協議中（１年次）	8～12	愛知教育大学附属 岡崎中学校
8.11. 6㈮	全教科	第57回特別支援教育研究協議会 「人とともに生きる子」（２年次）	7～11	愛知教育大学附属 特別支援学校
8.11.18㈬	全教科	第77回生活教育研究協議会 「自分と向き合う子ども」（３年次）	6～10	愛知教育大学附属 岡崎小学校

〈小学校〉

発表年月日	研究領域	研究主題	研究期間	指定等	地　区	学校名
8.10. 2㈮	道徳	自分の考えをもち、議論し認め合い・深め合う児童の育成 ～多面的・多角的に考える道徳科の授業を通して～	7～8	市教委	刈　谷	平成小学校
8.10. 9㈮	生活科 総合的な学習の時間	夢中になって学び続ける子 ～かかわり合いを大切にした授業づくりを通して～	6～8	市教委	蒲　郡	三谷小学校
8.10.14㈬	学習指導	学びをデザインする子供の育成 ～学びの土台づくりとファシリテーションの工夫～	6～8	市教委	岡　崎	矢作南 小学校
8.10.14㈬	生活科 総合的な学習の時間	自分の思いや考えを伝え合いながら、 主体的に問題解決に向けて動き出す新田っ子の育成 －地域のもの・ひと・ことに着目した生活科・総合的な学習の時間における実践を通して－	7～8	市教委	安　城	新田小学校
8.10.14㈬	全教科	最適な選択を模索する中で、自立の礎を築く子どもの育成 ～コンピテンシーベースの子どもに委ねる授業スタイル 「大清水スタンス」の実践を通して～	6～8	市教委	豊　橋	大清水 小学校
8.10.16㈮	学習指導 情報教育（ICT活用）	みんなで学びに向かい、自分にぴったりの学び方を 身につける児童の育成 ～「みや学びサイクル」の習得・活用を通して～	7～8	市教委	豊　田	美山小学校
8.10.22㈭	教科指導	ねばり強く考え、よりよく解決しようとする子の育成 ～一人一人の考えをみんなで深め合う算数科の授業を通して～	6～8	市教委	西　尾	一色中部 小学校
8.10.22㈭	全教科	自ら動き出す子をめざして ～『白浜つなぐプロジェクト　学びをつなぐ授業』を通して～	6～8	市教委	西　尾	白浜小学校
8.10.22㈭	全教科	仲間と伝え合い、学びを深める来小っ子の育成 ～協働学習グループ活動を通して～	7～8	市教委	知　立	来迎寺 小学校
8.10.22㈭	教科指導	自ら歩む子　ともに拓く子 ～学び方を学び、ともに学ぶ喜びを感じる授業を通して～	6～8	市教委	豊　川	東部小学校
8.10.22㈭	教科指導	笑い声が響く♪ 中小っ子 ～学びの笑顔につなげる工夫～	6～8	市教委	豊　川	中部小学校
8.10.22㈭	教科指導	仲間とつなぐ　学びをつなぐ ～かかわりあいを大切にした学びを通して～	6～8	市教委	豊　川	長沢小学校
8.10.22㈭	全教科	課題解決に向けて、学びに目的意識をもって 取り組む子どもの育成 ～学習基盤の育成と見通しをもった学びの創造～	6～8	市教委	新　城	舟着小学校
8.10.22㈭	全教科 全領域	自分とみんなが幸せ（ウェルビーイング）になるた めに必要な力をつける ～仲間とのかかわりを大切にし、子どもの意欲を高める教育活動の創造～	6～8	市教委	新　城	東陽小学校

〈小学校〉

発表年月日	研究領域	研究主題	研究期間	指定等	地　区	学校名
8.10.22㈭	各教科 総合的な学習の時間 特別活動	「自分の考えを豊かに表現し、共に高め合う子どもの育成」 ～キャリア教育の視点で～	6～8	市教委	新　城	鳳来東 小学校
8.10.28㈬	教科指導	「やりたい!」「解決したい！」という思いから始まる 子どもの問いを軸にした授業づくり ～「探究」の学習過程を土台にして～	7～8	市教委	刈　谷	亀城小学校
8.10.29㈭	算数科	「わかる！」「できる！」「もっとやってみる！」 ～ユニバーサルデザインの視点による算数科の授業実践を通して～	6～8	市教委	田　原	大草小学校
8.10.30㈮	全教科 特別活動	主体的に学び、自ら育つ子の育成 －児童が願いを実現する授業・特別活動を通して－	7～8	市教委	安　城	安城中部 小学校
8.11. 4㈬	全教科	自ら問いをもち、夢中になって学ぶ子の育成 ～多様な「つながり」の中で～	6～8	市教委	豊　橋	多米小学校
8.11.11㈬	学習指導	「学ぶ力」を磨き合い、未来社会の創り手となる子供の育成 ～情報活用能力を学習の基盤とする取り組みを通して～	6～8	市教委	岡　崎	竜谷小学校
8.11.13㈮	特別活動	自己・他者を大切にし、心豊かに実践できる子の育成 －ウェルビーイングの向上を目指したSELを核とした実践を通して－	7～8	市教委	豊　田	若林東 小学校
8.11.19㈭	生活科 総合的な学習の時間 自立活動	地域とのつながりの中で、思いや願いを叶えようと 自ら動き出す子の育成	6～8	市教委	碧　南	西端小学校

〈中学校〉

発表年月日	研究領域	研究主題	研究期間	指定等	地　区	学校名
8.10. 7㈬	教科指導	令和8年度「わかる学習指導」第13次研究・4年次 未来を見つめ、自己の創造に向かう生徒の育成 －教科の学習内容の有用性を実感できる授業の実現を通して－	5～8	自　主	岡　崎	竜海中学校
8.10. 8㈭	全教科	主体的に学ぶ生徒 ～「わかった」「できた」から「愉しさ」を実感し、探究的に学ぶ～	7～8	市教委	刈　谷	富士松 中学校
8.10. 9㈮	全教科	自ら学び、動き出す生徒を育てる ～「単元を貫く問い」を大切にして～	6～8	市教委	蒲　郡	蒲郡中学校
8.10.21㈬	教育全般	よりよく生きるための、生徒エージェンシーの育成 ～みなみサイクルを取り入れた道徳・特活・総合を通して～	6～8	市教委	岡　崎	南中学校
8.10.22㈭	全教科	話し合いを通して考えを深め、粘り強く学び続ける生徒の育成 －敬愛力を土台にして、学びを楽しむ授業づくり－	7～8	市教委	安　城	安祥中学校
8.10.22㈭	教科指導	未来を切り拓く寺中生 ～課題に向かう心、自分の考えを練り上げる力を育む授業づくり～	6～8	市教委	西　尾	寺津中学校
8.10.22㈭	教科指導	自ら学びを調整できる生徒の育成 ～個別最適な学びと協働的な学びの往還の実践を通して～	6～8	市教委	豊　川	金屋中学校
8.10.22㈭	全教科	「学びたい」をもち続け、自ら選択しながら 学びを深めることのできる生徒の育成 ～ICTを効果的に活用した個別最適・協働的な学習活動を目指して～	6～8	市教委	新　城	鳳来中学校
8.10.28㈬	全教科	「究めたい」と学び続ける命輝く生徒の育成 ～aarサイクルを軸にした授業づくりを通して～	6～8	西三河 事務協	幸　田	幸田中学校
8.10.28㈬	全教科	わかる喜びを実感し、主体的に学び続ける生徒の育成 ～であわせの工夫と振り返りを大切にした授業づくりを通して～	6～8	市教委	豊　橋	東部中学校
8.10.29㈭	教科指導	学びの中で、思いを形にする生徒の育成 ～東中式　探究的な授業で目指す深い学び～	7～8	市教委	田　原	東部中学校
8.11. 5㈭	国際理解教育 学習指導	対話でつくるみんなに「やさしい学校」 －国際理解教育・ユニバーサルデザイン授業－	7～8	市教委	豊　田	崇化館 中学校

無償配付版へのご意見・ご要望を「モニターBOX」からお寄せください

①「学習・演習類」ルビ版（PDF）

ご採用いただいている教科・学年のものであれば、無償でダウンロードできます。本法人ホームページより、教師用PDF版と同じ手順で入手できます。

②「学級活動アイデア集（中学校用）」（PDF）

「中学生の安全」の内容も取り込み、学級活動で活用できる教師用としてリニューアルしました。授業のステップが明確に示されており、編集可能なワークシートも充実しています。

他刊行物へのご意見・ご要望もお待ちしています。
「モニターBOX」は、本法人ホームページにリンクボタンがあります。

過去に寄せられたご要望とその対応例

「英語の学習」の氏名欄に4線を入れていただけると、子どもたちがローマ字できれいに名前を書けます。

↓

次年度版にすぐに反映させました。

上記②についていただいたご感想

レクリエーションを行うときの流れについて、初めてしっかり考えることができました。一部生徒のやりたい内容に決まってしまうことが多いレクリエーションですが、クラスでしっかり話し合ったり、目的をはっきりさせたりすることで、みんなが笑顔になる空間になるなと思いました。しっかり話し合う時間を設けることはすごく大変ですが、学級経営に必要な時間だなと思いました。

令和８年度 業務組織

※（　）内は担当地区

顧　　問	水越　光久
理 事 長	山本　武志
副理事長	遠山　祐幸
常務理事	柵木　智幸（岡崎） 加藤　博之（西尾）
事 務 長（兼 総務部）	保科　克之（附属・豊田）
事務次長（兼 業務部）	松平　貴圭（豊川）
総 務 部	夏目　貴司（幸田・新城）
編 集 部	平井　　敦（田原） 山田　昌弘（蒲郡・北設楽）
ＩＣＴ部	鈴木　勝久（知立・みよし） 名倉　嘉章
業 務 部	加藤　嘉一（豊橋） 本多麻紀子 深津　理絵
経 理 部	近藤　文彦（安城・高浜） 都築　克章（碧南・刈谷） 牧　　富代
事務補佐	鳥居　直美

刊行物　使用報告・注文締切

◇使 用 報 告／夏休み日誌　　7月2日㈭～6日㈪
　　算数の友（下）　9月1日㈫～3日㈭
□第Ⅲ期注文／冬休み日誌・かきぞめ手本等　9月8日㈫～10日㈭
　　校長承認が必要です

文振の最新情報は、ホームページ及び毎月初めに配信されるメールマガジン「文振だより」をご覧ください。各種応募要項、申請書の様式等もアップしています。

教育と文化　令和8年7月1日号 No.141
発行／公益財団法人愛知教育文化振興会
〒444-0868　岡崎市明大寺町字馬場東170番地1
TEL 0564-51-4819
https://www.bunsin.org

※QRコードは㈱デンソーウェーブの登録商標です。